

【(2) 乳用牛】

- ① 飼養頭数（令和4年2月1日現在）
 - ・ 総飼養頭数 13,100頭（前年比 97.0%）
 - ・ 経産牛頭数 9,340頭（前年比 97.4%）
全国シェア1.0%（第14位）

【動向】 経産牛頭数：昭和60年（15,900頭）をピークに年々減少
令和4年はピーク時に比べて、約6,600頭減少
- ② 飼養戸数（令和4年2月1日現在）
 - ・ 飼養戸数 147戸（前年比94.2%）

【動向】 飼養戸数：昭和60年（1,060戸）をピークに年々減少
令和4年はピーク時に比べて、約900戸減少
- ③ 飼養規模（令和4年2月1日現在）
 - ・ 1戸当たり飼養頭数 89.1頭（対前年比103.0%）

【動向】 1戸当たり飼養頭数は年々増加し、規模拡大が進行傾向
- ④ 県内で酪農が盛んな地域（令和4年2月1日現在）
 - ・ 経産牛頭数 大隅(肝属)地区 2,117頭（県内シェア 23.2%）
種子島地区 1,570頭（県内シェア 17.8%）
- ⑤ 出荷動向（令和3年度）
 - ・ 生乳生産量 77,311t（前年比98.3%）
 - ・ 受託販売乳量 75,561t（前年比97.1%）※県酪農協取扱分
 - ・ 搾乳牛1頭当たり乳量 9,162kg（前年比99.7%）

【動向】 生乳生産量（受託販売乳量）：減少
搾乳牛1頭当たり乳量：増加傾向（305日換算乳量）
- ⑥ 流通動向（令和3年度）
 - ・ 乳業工場数 生乳処理工場 2ヶ所（薩摩川内市，鹿屋市）
 - ・ 県内生乳処理量 22,202 t（牛乳等向け15,476t，乳製品向け6,726t）
 - ・ 県内生産量のうち約7割は、県外工場処理
- ⑦ 酪農経営の収益性
 - ・ 令和4年度の生乳取引価格は前年度から全用途据え置きとなったが、11月より飲用向け（学校給食用牛乳向け含む）及びはっ酵乳向け乳価が10円/kg引き上げ
 - ・ 副産物収入である交雑種（F1）価格は、R3年135,855円/頭（前年比75%）、乳用雄（ヌレ子）価格は、R3年70,776円/頭（前年比65%）
 - ・ 令和3年度の搾乳牛1頭あたりの所得（全国）は約87千円（家族労働費を除く）

出典：①②③農林水産省「畜産統計」、④県酪農協「通常総会資料」、⑤⑥農林水産省「牛乳乳製品統計」及び乳用牛群検定全国協議会「乳用牛群能力検定成績」、⑦農林水産省「農業経営統計調査」及び農畜産業振興機構「肉用子牛取引状況」

